

平成17年度（第49回）
岩手県教育研究発表会発表資料

社会 / 地歴・公民

小学校社会科の歴史学習における 考える力を育てる学習指導に関する研究

- 資料提示と発問の工夫をとおして -

平成18年1月12日
長期研修生
所属校 大槌町立大槌小学校
高田 公明

目 次

研究目的	1
研究仮説	1
研究の内容と方法	1
1 研究の内容と方法	1
2 授業実践の対象	2
研究結果の分析と考察	2
1 小学校社会科の歴史学習における考える力を育てる学習指導に関する基本構想	2
(1) 小学校社会科の歴史学習における考える力を育てる学習指導に関する基本的な考え方...	2
(2) 小学校社会科の歴史学習における考える力を育てることの意義	2
(3) 小学校社会科の歴史学習における考える力を育てる学習指導	3
(4) 小学校社会科の歴史学習における考える力を育てる学習指導に関する基本構想図	5
2 手だてにかかわる実態調査及び調査結果の分析と考察	6
(1) 実態調査の目的と内容	6
(2) 実態調査の分析と考察	6
(3) 手だての試案作成上の配慮事項	8
3 基本構想に基づく手だての試案の作成	8
(1) 手だての試案	8
(2) 検証計画	9
4 授業実践及び実践結果の分析と考察	9
(1) 資料提示と発問の工夫を取り入れた授業実践の概要	9
(2) 実践結果の分析と考察	13
5 小学校社会科の歴史学習における考える力を育てる学習指導に関する研究のまとめ	16
(1) 成果	16
(2) 課題	16
研究のまとめ	16
1 研究のまとめ	16
2 今後の課題	17

おわりに

【参考文献】

【補充資料】

研究目的

小学校社会科の歴史学習では、児童が、先人の業績や願いを学び、歴史的事象の見方を広げたり、考え方を深めたりして事象の意味を考える力を育てることが求められている。この考える力は、社会生活についての理解を深め、社会の変化に自ら対応する能力や態度を育成するための基礎となるものである。

しかし、児童の実態をみると、歴史学習に興味をもちながら授業に取り組むものの、問題の追究が表面的なものにとどまり、歴史的事象に対してその意味をとらえたり、自分の考えを深めたりすることができない状況が見られる。これは、単位時間の指導過程の中で、児童が歴史的事象を多様な観点から追究したり、児童と歴史的事象とのかかわりを深めたりする指導が十分に行われていなかったためと思われる。

このような状況を改善するためには、児童に歴史的事象の意味や働きを様々な視点から考えさせていく場を指導過程に設け、資料提示や発問を工夫することが必要である。そして、それぞれの見方や考え方を交流させることで、児童個々の視野を広め、考える力を高めていくことができるよう指導を工夫する必要がある。

そこで、この研究は、小学校の歴史学習において、資料提示と発問の工夫を行うことによって、児童の考える力を育てる学習指導の進め方を明らかにし、小学校社会科の歴史学習における指導の改善に役立てようとするものである。

研究仮説

小学校社会科の歴史学習において、歴史的事象の意味や働きを様々な視点から考えさせていく場を指導過程に設け、事象の多面性に気付かせる資料提示と発問を行い、それぞれの見方や考え方を交流させるならば、考える力を育てることができるであろう。

研究の内容と方法

1 研究の内容と方法

- (1) 小学校社会科の歴史学習における考える力を育てる学習指導に関する基本構想（文献法）
小学校社会科の歴史学習における考える力を育てる学習指導についての基本的な考え方をまとめ、考える力を育てる学習指導についての基本構想を立案する。
- (2) 手だてにかかわる実態調査及び調査結果の分析と考察（質問紙法）
社会科の学習活動における児童の実態を調査し、その分析と考察から明らかになった点を整理し、資料提示と発問の工夫を取り入れた学習指導についての手だての試案作成に役立てる。
- (3) 基本構想に基づく手だての試案の作成（文献法）
基本構想と実態調査の結果に基づき、資料提示と発問の工夫を取り入れた手だての試案を作成する。
- (4) 授業実践及び実践結果の分析と考察（授業実践、テスト法）
手だての試案に基づいて授業実践を行い、その分析をとおして、考える力の育成状況を考察する。
- (5) 小学校社会科の歴史学習における考える力を育てる学習指導に関する研究のまとめ
実践結果の分析と考察に基づき、小学校社会科の歴史学習における考える力を育てる学習指導についてまとめる。

2 授業実践の対象

大槌町立大槌小学校 第6学年 1学級（男子12名 女子12名 計24名）

研究結果の分析と考察

1 小学校社会科の歴史学習における考える力を育てる学習指導に関する基本構想

(1) 小学校社会科の歴史学習における考える力を育てる学習指導に関する基本的な考え方

歴史学習における考える力とは、歴史的事象の見方を広げたり、考え方を深めたりして、歴史的事象の起きた原因や当時の社会に与えた影響、役割などの意味や働きについて考えることができる力のことである。歴史的事象の見方を広げるとは、事象のもつ多面性に気付くことであり、歴史的事象の考え方を深めるとは、事象のもつ多面性をとらえながら事象の意味について根拠のある考え方をすることである。事象の多面性とは、その事象のもつ様々な意味や働きのことである。

【表1】歴史学習における考える力の構成要素

構成要素	構成要素の意味
自分の考えをもつ力	歴史的事象の問題について、これまでの学習や生活経験を基に予想をする
自分の考えを広げる力	歴史的事象の意味について、様々な視点から追究し、事象の多面性に気付く
自分の考えを深める力	歴史的事象の意味について、それぞれの見方や考え方を交流し、自分の考えを根拠のあるものとする

本研究では、【表1】のように、小学校社会科の歴史学習における考える力を、「自分の考えをもつ力」「自分の考えを広げる力」「自分の考えを深める力」の三つの要素から構成されるものととらえる。「自分の考えをもつ力」は、歴史的事象の事実をとらえて問題意識をもち、その問題についてこれまでの学習や生活経験を基に予想し、自分の考えをもつ力である。「自分の考えを広げる力」は、歴史的事象の意味について様々な視点から追究し、事象のもつ多面性に気付く力である。「自分の考えを深める力」は、歴史的事象の多面性をとらえながら、その意味について、児童個々の見方や考え方を交流し、これまで自分では気付かなかった見方や考え方を自分の考えに取り入れながら、自分の考えを根拠のあるものにする力である。これらの三つの構成要素が、学習過程の中で段階的に培われることにより、児童の歴史学習における考える力が育っていく。そこで本研究においては、歴史学習における考える力が育った児童の姿を「歴史的事象に対する見方を広げたり、考え方を深めたりして自分なりの考えをもてる児童」ととらえる。自分なりの考えとは、追究してきたことを基に歴史的事象の意味や働きを把握し根拠のある自分の思いや意見のことである。

(2) 小学校社会科の歴史学習における考える力を育てることの意義

小学校の歴史学習では、人物の働きや文化遺産を取り上げた学習を行い、児童の興味・関心や学習意欲を高めながら、我が国の歴史や伝統を大切にし、国を愛する心情を育てることが求められている。授業においては、歴史上の細かな出来事や年号などの知識習得に偏った学習にならないように留意し、取り上げる人物や文化遺産を精選することが大切とされている。

児童が学習する際に重要なことは、「その歴史的事象がどのような意味をもっているのか」「なぜ、そのような事象が生じたのか」を考え、様々な視点から追究して事象の多面性に気付いたり、自分の考えを深めたりすることである。このような学習を通じ、児童は歴史的事象の意味や働きについて理解することができると思う。その際、社会生活についての理解を深め、社会の変化に自ら対応する能力や態度を育成するための基礎となる力が、歴史学習における考

える力である。児童は歴史的事象の意味について主体的に考えることで、その時代の世の中の課題や人々の願いを実現するための様々な知恵や工夫を学び、これからの社会生活に役立てていくことができると思う。

(3) 小学校社会科の歴史学習における考える力を育てる学習指導

ア 歴史学習における考える力を育てる場について

本研究では、問題解決的な学習を取り入れ、学習過程を「問題の把握」「問題の追究」「まとめ」という三つの段階で構成する。その際、考える力の構成要素である「自分の考えをもつ力」「自分の考えを広げる力」「自分の考えを深める力」を育てる場を、【表2】のように指導過程に位置付け学習活動を展開する。

児童は歴史的事象と出会い、「おかしいな、どうしてだろう」という疑問や「もっと詳しく調べてみたい」という追究意欲をもちながら、歴史的事象の事実をつかむ。そして、疑問や調べてみたいことから学習問題をたて、既習事項や生活経験を基にしながら、自分なりの予想をしたり、考えをもったりする。こ

のように、歴史的事象に対して、問題を見出し、追究意欲を高めながら自分なりの考え（予想）をもつ場が「考えをもつ力を育てる場」である。そして学習問題の解決を図る過程において、歴史的事象の意味を多様な視点や立場から追究し、事象に対する児童の見方や考え方を広げる場が、「考えを広げる力を育てる場」である。さらに、児童個々が抱いた事象に対する見方や考え方を交流し合い、その活動の成果を取り入れながら自己の考えを深めていく活動の場が、「考えを深める力を育てる場」である。

以上のように、考える力を育てる三つの場を経ることにより、歴史的事象に対して自分なりの考えをもった児童を育てることができると思う。

イ 考える力を育てる場における資料提示と発問の工夫について

歴史学習における考える力を育てるための手だてとして、考える力を育てる三つの場において、資料提示と発問の工夫を行うこととする。資料提示の工夫とは、三つの場において、それぞれの学習活動のねらいが十分達成されるよう資料の内容面や提示方法を工夫することである。また、発問の工夫とは、その資料提示を生かし、児童の追究意欲を高めたり、多様な見方や考え方を行ったりすることである。

「考えをもつ力を育てる場」では、児童に歴史的事象に興味・関心をもたせ、歴史的事象の特徴をとらえさせたり、児童の追究意欲を高めたりする資料提示と発問の工夫を行う。

「考えを広げる力を育てる場」では、児童に歴史的な事象の多面性に気付かせることができる資料提示と発問の工夫を行う。

「考えを深める力を育てる場」では、これまでの追究過程を振り返り、児童個々の見方や考え方を交流させる発問を行う。

【表2】歴史学習における考える力を育てる場

段階	場	学習活動
問題の把握	育てる場 もつ力を 考える	1 事実をつかむ
		2 学習問題をたてる
問題の追究	育てる場 広げる力を 考える	3 学習問題に対する予想をする
		4 確かめる ・自力解決する ・自力解決を基に確かめる
		5 事象のもつ意味を考える ・多様な視点から問題を追究する ・事象に対する見方や考え方を交流する
まとめ	育てる場 深める力を 考える	6 まとめ・ふり返る ・自分なりの考えをもつ

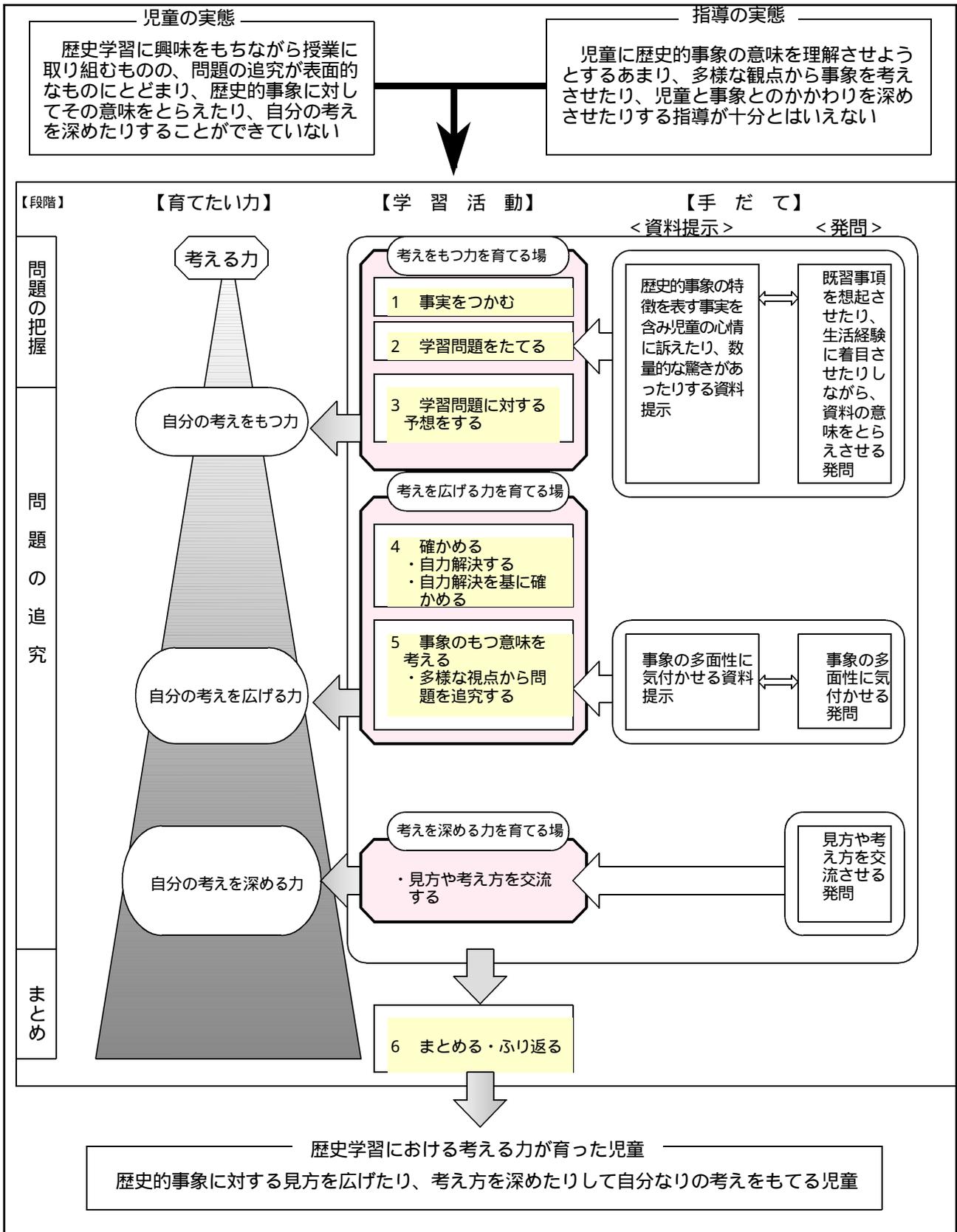
このような資料提示と発問の工夫、歴史学習における考える力を育てる場のかかわりを【表3】のようにまとめた。

【表3】歴史学習における考える力を育てる場と、資料提示と発問の工夫のかかわりについて

場	資料提示について	資料提示の留意点	発問について	発問の留意点
考えをもつ力を育てる場	歴史的事象との出会いにおいて、児童に興味・関心をもたせ、歴史的事象の特徴をとらえさせる資料提示を行う	<ul style="list-style-type: none"> 歴史的事象の特徴を表す事実を含んでいる資料を提示する 児童の心情に訴えたり、数量的な驚きがあったりする資料を提示する(具体例) 歴史的事象の事実に着目させるために、資料にマスクングしたり、資料の大きさを調整したりする 	既習事項を想起させたり、生活経験に着目させたりしながら、資料の意味をとらえさせる発問を行う	<ul style="list-style-type: none"> 資料の人物や様子など、事象の特徴を表すものに着目させる発問をする 資料から、問題を見出すよう発問する 歴史的事象を既習事項や生活経験と結び付けて考えられるよう発問する
考えを広げる力を育てる場	事象の多面性に気付かせる資料提示を行う	<ul style="list-style-type: none"> 多様な視点から問題を追究したときに、事象の多面性が分かる事実を含む資料を提示する 追究する視点や立場の変化が、明確に分かるようにする(具体例) 追究する立場を明確にするために、人物の絵を提示したり、吹き出しやマスクングを使ったりする 	事象の多面性に気付かせる発問	<ul style="list-style-type: none"> 多様な視点から問題を追究できるように、視点や立場が明確になるよう発問する 問題追究する視点や立場を明確にして、歴史的事象の意味について考えさせる
考えを深める力を育てる場		<ul style="list-style-type: none"> 交流の場では、提示した資料に着目させ、資料を根拠としながら児童個々の見方や考え方を交流させる 	見方や考え方を交流させる発問	<ul style="list-style-type: none"> 問題追究してきたことを整理しながら、事象の多面性をとらえることができるよう発問する 視点や立場によって事象の見方や考え方が変わることに着目させながら、その事象に対して自分がどう思うか促す

(4) 小学校社会科の歴史学習における考える力を育てる学習指導に関する基本構想図

これまで述べてきたことを基に、小学校社会科の歴史学習における考える力を育てる学習指導に関する基本構想図を、【図1】のようにまとめた。



【図1】歴史学習における考える力を育てる学習指導についての基本構想図

2 手だてにかかわる実態調査及び調査結果の分析と考察

(1) 実態調査の目的と内容

ア 調査の目的

この調査の目的は、社会科の学習活動での児童の実態調査を行い、資料提示と発問の工夫を取り入れた学習指導についての手だての試案作成に必要な資料を得ることである。

イ 調査の対象

大槌町立大槌小学校 第6学年 1学級（男子12名 女子12名 計24名）

ウ 調査日時

平成17年7月22日（金）1校時

エ 調査の内容

実態調査の観点及び設問の内容は、【表4】のとおりである。

【表4】実態調査の観点及び設問の内容

調査の観点	設問	設問内容	手だてへの生かし方
学習問題に対する答えを予想するときの実態	1	学習問題に対する答えを予想する場面です。あなたは、学習問題に対する答えを予想しています。どんなことを基に予想しますか。あてはまると思う記号すべてに をつけてください	・学習問題に対する答えを予想する場面における配慮事項を把握し、何に着目させ、どのようなことを想起させればよいのか発問の組み立てに生かす
学習問題を解決したときの児童の意識	2	学習問題を自分で解決する場面です。学習問題の答えが分かりました。そのときのあなたの気持ちにもっとも近いものを一つえらんで記号に をつけてください	・問題追究の段階での問題追究の視点を変える場面で、資料提示を行う際の配慮事項を把握し、問題追究が児童の思考の流れに沿うように資料提示の仕方や視点の与え方に生かす
友だちの発表を聞くときの実態	3	学習問題について解決したことを発表する場面です。友だちが考えたことを発表しています。あなたは、友だちの発表をどのように聞いていますか。自分の聞き方にもっとも近いものを一つえらんで記号に をつけてください	・問題追究の段階での見方や考え方を交流する場面における配慮事項を把握し、見方や考え方を交流させる発問の組み立てに生かす

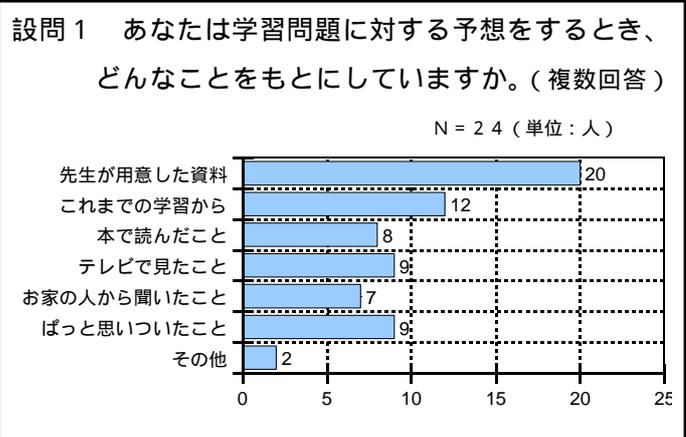
(2) 実態調査の分析と考察

ア 学習問題に対する答えを予想するときの実態

学習問題に対する答えを予想するときに、どんなことを基にしているか調査結果をグラフに表したものが【図2】である。

図に示したように、「先生が用意した資料から」が20名と一番多く、ほとんどの児童が導入段階で提示した資料を基に学習問題に対する答えを予想していることが分かる。「ぱっと思いついたことを書く」と答えた9名の児童は、「先生が用意した資料から」(7名)

「これまで学習したことを思い出して」(5名)、「本で読んだことを思い出して」(4名)、「テ



【図2】学習問題の予想について

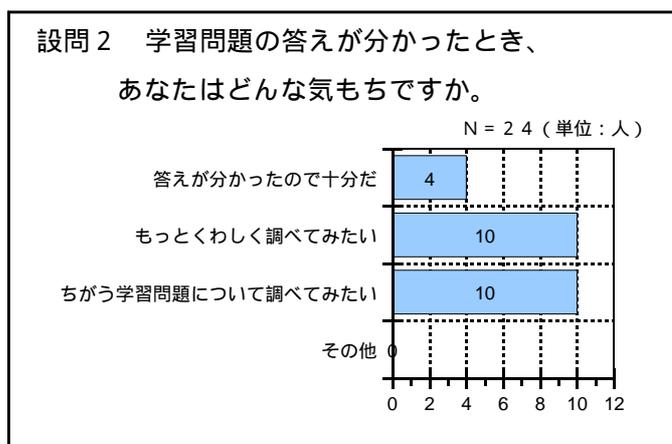
テレビで見たことを思い出して」(3名)、「お家の人から聞いたことを思い出して」(4名)等の回答もしており、いつも思いつきだけで予想しているわけではない。複数回答の内訳は、二つが4名、三つが7名、四つが3名、五つが4名、一つだけが6名である。この6名の内訳は「先生が用意した資料から」が5名、「これまで学習したことを思い出して」が1名である。

これらのことから、児童は、教師が提示した資料や既習事項などを基に、学習問題の予想をすることが多いととらえられる。しかし、児童は、授業によっては単なる思い付きで予想する場合もあることが分かる。このような授業では、予想の手がかりとなる資料が不備であったり、自らの生活経験などとのかかわりを見出せなかったりするために、児童が思い付きで予想を書きってしまうものと思われる。したがって、歴史的事象の特色をとらえたり、他の事象とのかかわりに気付いたりする資料を準備することや、自らの生活経験と比較して事象の意味を考えることができる発問を行うなどの工夫が必要である。

イ 学習問題を解決したときの児童の意識

学習問題を解決したときの意識についての調査結果をグラフに表したものが【図3】である。

図に示したように、「答えが分かったので十分だ」と回答した児童は、4名(16%)であり、それ以外の20名(84%)の児童は、「もっとくわしく調べてみたい」(10名)、「ちがう学習問題について調べてみたい」(10名)の回答に見られるように、学習問題を解決した後も、さらなる追究を望んでいる。これまでの授業では、学習問題の答えが分かると追究を終えてしまう展開が多かったが、このような授業では児童の学習意欲を満たすことは難しいと思われる。学習問題について、違った視点から追究して新たな発見をしたり、より深く問題の意味を考えたりする学習が必要と思われる。

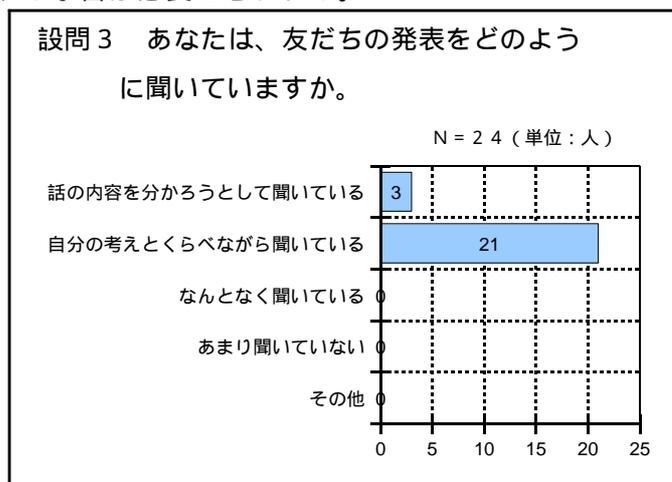


【図3】学習問題を解決した時について

ウ 友だちの発表を聞くときの児童の実態

【図4】は、授業において、友だちが発表しているときの聞き方についての調査結果を表したものである。図で示したように、「自分の考えとくらべながら聞いている」と答えた児童21人は、友だちの発表を聞くときのポイントをもっている。「話の内容を分かるうとして聞いている」と答えた児童3人は、友だちの発表内容を注意して聞こうとしていると思われる。

これらの結果から、ほとんどの児童が発表を意欲的に聞こうとする姿勢や話の聞き方の視点をもっているととらえられる。したがって、話し合いの場を授業に多く取り入れていくことが、いろいろな見方や考え方の存在に気付かせる学習を進める上で大切である。



【図4】発表の聞き方について

(3) 手だての試案作成上の配慮事項

実態調査の結果から、次のような配慮事項が明らかになった。

ア 学習問題に対する予想を行う時に、既習事項や生活経験と結び付けられるように具体的な事柄にふれるようにする。

イ 多様な視点から問題を追究する場面では、児童が追究する視点や立場を明確にとらえることができ、児童の追究意欲が継続するような資料提示と発問の工夫を行う。

ウ 見方や考え方を交流する活動では、友だちの発表に対する自分の考えを発表させるようにする。

3 基本構想に基づく手だての試案の作成

(1) 手だての試案

基本構想に基づき、資料提示と発問の工夫を取り入れた手だての試案を【図5】のように作成した。

段階	場	指導上の留意点		
		学習活動	資料提示にかかわる指導上の留意点	発問にかかわる指導上の留意点
問題の把握	考えをもつ力を育てる場	1 事実をつかむ	自分の考えをもつ力を育てる場	
		2 学習問題をたてる	・ 歴史的事象の特徴が表われ、児童の心情に訴えたり、数量的な驚きがあったりする資料を提示する	・ 資料の人物や様子など、事象の特徴を表すものに注目させる発問を行う
		3 学習問題に対する予想をする	・ 児童の興味・関心を高められるようにマスキングなどの提示方法を工夫する	・ 既習事項や生活経験とかかわらせ主体的に問題をとらえさせる発問を行う
問題の追究	考えを広げる力を育てる場	4 確かめる ・ 自力解決する ・ 自力解決を基に確かめる	自分の考えを広げる力を育てる場	
		5 事象のもつ意味を考える ・ 多様な視点から問題を追究する	・ 児童の視野を広げたり、多様な視点から問題の追究をしたりできる内容を含む資料を提示する	・ 追究する視点や立場が明確になる発問を行う ・ 当時の人々の立場から、歴史的事象について考えられるように促す
		・ 見方や考え方を交流する	・ 児童が自分の考えを明確にもてるよう人物に視点を当てたり、絵や図の大きさを調整したり、吹き出しやマスキングを使ったりして追究する視点や立場を児童につかませる	
まとめ	考えを深める力を育てる場	6 まとめ・ふり返る	自分の考えを深める力を育てる場	
			・ 交流の場では、提示した資料を基に見方や考え方を交流する	・ 歴史的事象に対して「賛成か」「反対か」などの立場を明確にすることで、見方や考え方の交流を促す ・ 交流したことを基に事象の意味についてふり返らせ、自分の考えを根拠のあるものにするように促す

【図5】資料提示と発問の工夫を取り入れた手だての試案

(2) 検証計画

授業実践をとおして考える力の状況をとらえ、その結果により、手だての試案の有効性、仮説の妥当性について分析し、考察する。【表5】は検証内容と方法及び処理・解釈の方法を示したものである。【表6】は、授業中の様子やノートの記述内容から実現状況を把握するための視点を示したものである。

【表5】検証内容と方法及び処理の方法

検証項目	検証内容	検証方法	処理・解釈の方法
考える力の育成状況	自分の考えをもつ力 自分の考えを広げる力 自分の考えを深める力	は、授業実践前と授業実践中の学習問題に対する予想を比較する	・ノートの記述内容について、【表6】実現状況を把握する視点に基づいて分析し、考察する
		は、授業での観察とノートの記述	・授業中の様子やノートの記述内容について、【表6】実現状況を把握する視点に基づいて分析し、考察する
		は、テスト法で事前事後に実施	・判断する基準【補充資料2】により結果を分析し、考察する

【表6】授業中の様子やノートの記述内容から実現状況を把握する視点

検証内容	実現状況を把握する視点	ノート記述例及び発言例
もつ力 自分の考えを	学習問題についてどのように予想しているか	問題把握段階で提示した資料や発問から
	・事実に着目して	・ という事実から、 だろーと思ひます
	・既習事項と結び付けて	・前に学習した ということと同じだから、 だろーと思ひます
	・生活経験と結び付けて	・身近な例だと ということと同じだから、 だろーと思ひます
広げる力 自分の考えを	歴史的事象の意味について追究しているか	事象の多面性に気付かせる資料提示と発問から
	・追究する視点や立場の変化を理解して	・（これまでは の立場から学習問題について考えてきたが） これからは の立場から考えていきます ・ の立場からすると、 だろーと思ひます ・ という事実からすると、事象の意味は ということになります
	歴史的事象の意味について、自分の考えを根拠のあるものになっているか	見方や考え方を交流させる発問から
自分の考えを深める力	・自分では気付かなかった見方や考え方から	・ さんの意見から、事象の という意味が分かりました ・ さんの意見から、事象の ということに気づき、 という考えになりました
	・事象の多面性から	・ の立場からすると、事象の意味は になり、だから、自分としては～と思ひます ・ の立場からすると、事象の意味は になります。だから、自分として～と思ひます

4 授業実践及び実践結果の分析と考察

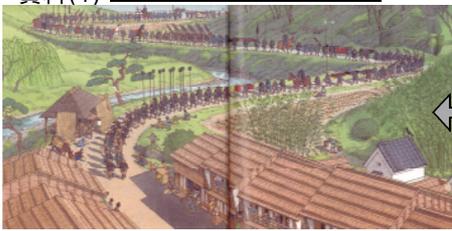
(1) 資料提示と発問の工夫を取り入れた授業実践の概要

授業実践は大槌町立大槌小学校第6学年（男子12名 女子12名を 計24名）を対象とし、平成17年8月30日から9月16日まで行った。10頁～12頁の【資料1】に、授業実践の概要を示す。

【資料1】授業実践の概要（2/7時）

本時のねらい 参勤交代が幕府の大名支配に果たした役割についてとらえるとともに、この制度の意味や働きについて自分なりの考えをもつことができる。

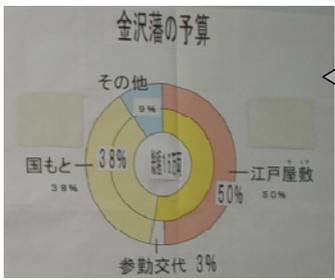
(1)考えをもつ力を育てる場：どうして参勤交代のしたのか予想し、自分の考えをもつ

段階	場	学習活動	資料提示について	発問について	児童の様子について
問題の把握力を育てる	自分の考えをもつ	1 事実をつかむ ・参勤交代の概要をとらえて、参勤交代の意味について問題意識をもち、追究意欲を高める。	<p>資料(1) 大名行列を表した絵</p>  <p>(出典『小学社会6年上』,教育出版)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大名行列の特徴である「長い行列」「人数の多さ」「武士のもち物」が盛り込まれている資料である。 ・その特徴をとらえさせるために、模造紙1枚位の大きさにして提示した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・資料(1)を提示し、資料からわかることを発表させてから、行列の様子について焦点化していこうと発問を行った。「行列をしている人は、何を歩いていますか」 	<ul style="list-style-type: none"> ・大名行列の絵資料を提示すると、児童から「おう」「何これ、すごいなあ」という驚きの声があがった。 ・資料の中に、どのような人がいるのが注目し、人物の服装やもち物などに着目しながら、大名行列の概要をとらえることができた。
		<p>資料(2) 大名行列を説明した文</p> <ul style="list-style-type: none"> ・資料(1)の説明をした文章を提示した。 ・資料(1)の絵からは分からない「いつ」「どこで」「誰が」「何をしているか」を書いて提示した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・資料(2)を提示し、どこの藩の行列なのか、何人いるのかを確認する発問を行った。「どこの藩の行列ですか」「何人で行列をしていますか」 	<ul style="list-style-type: none"> ・資料(2)に書いてあることと、大名行列の絵を見比べながら金沢藩の行列であることや、人数についてとらえた。また、家光が大名に命じてこのような行列をさせていることをつかんだ。 	
		<p>資料(3) 参勤交代にかかった日数についての地図</p>  <p>(出典『社会科資料集6年』,文溪堂)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童に、金沢や江戸の「位置」や、その間の「距離」を視覚的にとらえさせ、2000人もの行列が行き来したことをイメージさせるために提示した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・資料(3)を提示し、大名の大変さを日数や距離から考えるようにした。また、身近な例から考えさせるように家族旅行と比べさせたり、行列の長さが4キロになることを知らせたりして発問した。「2000人もの行列は、大槌からどのあたりになると思いますか」 	<ul style="list-style-type: none"> ・金沢と江戸の位置を地図で確認したことで、距離とかかった日数、人数を結び付けて考えていた。 ・家族旅行については、発問の意図が上手く伝わらなかったが、2000人もの行列だと約4kmになり、釜石の鶴住居まで行列が続くことを知り驚いていた。 	
学習問題をたてる ・参勤交代の絵図などから本時の学習問題をたてる。	<ul style="list-style-type: none"> ・どうして大名行列が江戸に向かっているのか、参勤交代について資料(2)で確かめた。 ・単元の問題である「家光はどのような政治を行ったのだろう」と結びつけて学習問題をたてた。 				
問題の追究	3 学習問題に対する予想をする	<p>学習問題 家光はどうして参勤交代をさせたのだろう</p> <p>大名の妻と子を入質にとり江戸に来させ、幕府の勤めをさせたと思う。</p>			

<自分の考えをもつ力を育てる場での授業の様子>

・児童は、大名行列の絵や資料から「どうして大名行列を行うのか」「どうして妻や子を江戸に住ませるのか」ということに疑問をもつことができた。そして、参勤交代をさせる家光のねらいについて考え、学習問題に対する予想をして自分の考えをもつことができた。

(2) 考えを広げる力を育てる場：家光と大名の立場から参勤交代について考える

段階	場	学習活動	資料提示について	発問について	児童の様子について
問 題 の 考 え を 広 げ る 力 を 育 て る 場	<p>4 確かめる</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自力解決する。 <p>5 事象のもつ意味を考える</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自力解決したことを基に確かめる。 ・大名の立場から参勤交代について考える。 <p>費用の面から参勤交代について考える。</p>	<p>学習問題に対する自分の考えをもち、教科書や資料集から自力解決を行った。</p> <p>調べたことを発表し合い、幕府が大名の力を弱くするために参勤交代を行わせたことを確かめた。</p> <p>資料(4) 大名の駕籠を拡大した絵</p>  <ul style="list-style-type: none"> ・資料(1)の大名の駕籠を拡大した絵である。 ・駕籠に乗っている大名に、児童の意識を集中させるために提示した。 <p>資料(5) 大名を描いた絵</p>  <ul style="list-style-type: none"> ・大名を想像して描いた絵である。 ・児童が、大名の立場から参勤交代について考えることを明確にするために提示した。 <p>資料(6) 金沢藩の予算の円グラフ</p>  <ul style="list-style-type: none"> ・参勤交代にかかる費用の割合に注目させ、大名の負担を考えるために、グラフの項目にマスキングして提示した。 	<p>資料提示について</p> <p>発問について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大名が行列のどこにいるか発問し、大名の駕籠に注目させた。そして、資料(4)を提示して、大名が駕籠から降りるように見せ、発問した。「大名はどんな思いで参勤交代をしているんだろう」 ・黒板に資料(5)をはり、吹き出しの枠を書き発問した。「大名の思いを考え、吹き出しに書きましょう」 <p>児童の発言:</p> <p>わたしの妻や子どもを人質として江戸に任まわせることは反対だ。大争を妻と子どもを人質として江戸に任まわせばならぬ。</p>	<p>児童の様子について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童は、資料(1)のどこに大名がいるかとも関心があつた。資料(4)を提示すると駕籠から降りる大名に注目し、大名がどんな思いなのか考えようとしている姿が見られた。 ・大名の立場になって、妻や子が人質になっていることや費用がかかることを理由として挙げながら、大名の思いを吹き出しに書いていた。 ・予算の項目が何なのか、何に費用を使っているか関心を示しながら答えていた。 ・参勤交代にかかる費用が、金沢藩の予算の半分を占めていることに驚いていた。 	

<自分の考えを広げる力を育てる場での授業の様子>

・児童は、自力解決とそれを基にして確かめたことから、家光の参勤交代をさせたねらいをとらえることができた。このこととともに、大名の絵の提示により児童は大名の立場から、家光のねらいとかわらせて参勤交代について考えることができた。

(3)自分の考えを深める力を育てる場：参勤交代に対する児童個々の見方や考え方を交流する

段階	場	学習活動	資料提示について	発問について	児童の様子について
問題の考えを深める	自	<ul style="list-style-type: none"> 参勤交代に対する児童個々の見方や考え方を交流し、参勤交代に対する自分の考えを根拠のあるものとする。 	<p>これまで学習したことと資料を基に、参勤交代に対する見方や考え方を交流する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 参勤交代を行った幕府のねらいと、それに対する大名の考えを確認した。 家光が命じた参勤交代について自分がどう思うか、その事象に対する自分の立場が明確になるように発問を行った。そして、自分の考えの理由について発表させた。 参勤交代を行わなかった場合の大名の行動を考へることによって、参勤交代の果たした役割について視点を変えて考えさせた。 	<ul style="list-style-type: none"> 幕府は大名の力を弱めるために、参勤交代を行わせたこと。それに対して大名は従わざるを得なかったことを確認した。 参勤交代に賛成で挙手した児童は2、3名であったが、賛成理由をしっかりと発表することができた。反対意見では、賛成意見に対して反論をしながら述べていた。友だちの発表を集中して聞く様子が見られた。
			<p>6 まとめ・ふり返る</p> <ul style="list-style-type: none"> 参勤交代に対する自分の考えをノートに書く。 	<p>T みんなは参勤交代について賛成ですか、反対ですか。 (2、3人の児童から賛成という声が上がった) (挙手をさせた)</p> <p>T 賛成だという理由は、</p> <p>C 僕は参勤交代に賛成です。理由は参勤交代をすれば、戦いがなくて平和になると思うからです。</p> <p>T 反対だという理由は、</p> <p>C 理由は、妻や子を人質にされているし、大名に負担がかかる</p> <p>C 反対です。参勤交代で確かに戦いはないけど、支配されて生活するのは平和とは言えないからです。</p>	<p>T もし、参勤交代を行わなければ、大名はこの費用を何に使っただろうか。</p> <p>C 戦いに使う。</p> <p>C 武器を買う。</p> <p>C 城を建てる。</p> <p>T 参勤交代に対する自分の考えをノートに書きましょう。</p>
力	育	め	場	<ul style="list-style-type: none"> 参勤交代に対する自分の考えをノートに書いた。 学習を振り返り、参勤交代の意味についてまとめた。 	

<自分の考えを深める力を育てる場での授業の様子>

・児童は、参勤交代について家光と大名の立場から考えてきた。参勤交代について「賛成か反対か」発問すると、2、3人の児童から「賛成」という声が聞かれた。また、自分の考えの理由を資料から根拠付けて述べている姿や、それをしっかりと聞こうとしている児童の様子もみられた。このような様子から、児童が参勤交代について自分の考えをもち、参勤交代についての考えを深めようとしていることが分かった。

【児童の様子】(歴史学習における考える力を育てる場を中心に)

- 自分の考えをもつ力を育てる場では、ほとんどの児童が提示した資料に興味をもち、大名行列の特徴を押さえることができた。しかし、大名行列について生活経験と結び付けて考えさせようとした発問は、発問の意図が児童に伝わらず児童の考えを迷わせた。
- 自分の考えを広げる力を育てる場では、大名の立場から参勤交代について考えるための吹き出しへの記入が、2名の児童が未記入であった。しかし、ほとんどの児童が費用がかかることや江戸に妻や子が人質になっていることを根拠に考えていた。
- 自分の考えを深める力を育てる場では、参勤交代について自分はどう思うかという問いに、全員が賛成か反対に意思表示していた。その理由については、幕府や大名の立場から参勤交代について考えてきたことを基にしたものであり根拠のあるものであった。発言を聞いていた児童は、自分の考えと比べながら聞いていたことが、ノートの記述から分かった。

(2) 実践結果の分析と考察

手だての試案に基づく授業実践によって、児童の歴史学習における考える力の三つの構成要素「自分の考えをもつ力」「自分の考えを広げる力」「自分の考えを深める力」が、どのように育成されたかを検証計画に基づいて分析し、考察する。

ア 自分の考えをもつ力の育成状況

(ア) 自分の考えをもつ力の分析結果

【表7】は、授業実践前と授業実践中の学習問題に対する予想の記述の一例である。授業実践前の児童の記述では、学習問題「武士はどのようにして力をもつようになったのだろう」に対して、「戦いをして」「貴族をたおして」「毎日練習にはげんだ」のように根拠となるものを見いだせないまま直感的にとらえた記述が多く見られる。授業実践中の児童の記述では、学習問題「家光はどうして参勤交代をさせたのだろう」に対して、「自分が一番えらいということを大名に言うため」「大名の妻と子を入質にとり江戸に来させ」「兵を集めるため、妻や子を江戸に住ませる、武器を集める」のように、既習事項や歴史的事象の事実に着目して予想していた。

これらの分析をまとめた結果、自分の考えをもつことができた児童の割合は、95%であった。このことからほとんどの児童が、自分の考えをもつことができるようになったと考えられる。

(イ) 自分の考えをもつ力を育てる場における授業実践の分析

自分の考えをもつ力を育てるために、資料提示と発問を行った。ここでは、第2時の授業実践の様子から分析する。資料提示としては、大名行列の特徴である「長い行列」「武士がもっている物」「武士の衣装」「周りの人々の様子」が表れた場面を提示した。資料を提示すると、児童は何が描かれているのか興味をもち、長い行列が続いていることに驚いた。そこで、児童が大名行列の絵をとおして江戸時代により関心を示し、気付いたことや興味をもったことを述べられるように「この絵から分かることは何か。」と児童に発問した。児童は、武士や周りの人々に注目し、その様子について資料から読み取りを行った。次に、大名行列の絵からでは分からない「いつ」「どこで」「誰が」「何をしているか」を書いた文章を提示した。この資料では「どこの藩の行列ですか。」と問い、金沢藩の大名であることを確認した。そして、参勤交代にかかった日数が書いてある地図を提示し、石川県を確認してから、「どこに向かっていますか。」「何人で向かっていますか。」と発問した。児童は、地図を見ることにより、視覚的に距離的な遠さや、2000人も武士が行列した様子をイメージできたのではないかと考えられる。

児童は、このような学習活動をとおして、歴史学習への興味・関心をもつとともに、歴史的事象に対する問題意識を高め、学習問題に対して自分の考えをもつための視点を育むことができたと考えられる。

しかし、学習問題に対する記述内容をみると、5%の児童が自分の考えをもてたとはいえない記述をしていた。第2時では、「大名の領地の場所の様子を見たかったから」「江戸の様子などが知りたかったから」という記述であり、児童が学習問題の意味を取り違えたためと

【表7】学習問題に対する予想の記述
(一部抜粋)

	学習問題	児童の記述
授業実践前	武士はどのようにして力をもつようになったのだろう	<ul style="list-style-type: none"> ・戦いをして力をつけた ・貴族をたおして ・毎日練習にはげんだ
授業実践中	家光はどうして参勤交代をさせたのだろう	<ul style="list-style-type: none"> ・家光は、自分が一番えらいということを大名に言うために江戸に呼んだと思う ・大名の妻と子を入質にとり江戸に呼び、幕府の勤めをさせるため ・兵を集めたかったから大名の妻や子を江戸に住ませるため、武器を集めるため

考えられる。今後の留意点として、歴史的事象の事実を確実にとらえさせることと、児童の問題意識と学習問題にずれが生じないようにすることがあげられる。

以上のことから、提示した資料や発問は、より一層の吟味は必要であるが、自分の考えをもつために効果があったのではないかと考えられる。

イ 自分の考えを広げる力の育成状況

(ア) 自分の考えを広げる力の分析結果

事前・事後テストでは、検地の様子を表した資料の中で、児童が着目した人物の増減と、記述の状況から、「自分の考えを広げる力」の育成状況をとらえた。これは、事象の多面性に気付いたり、考えたりするための視点の有無を判断するためである。

【表8】は、「自分の考えを広げる力」の状況について、事前・事後テストの結果をまとめたものである。表から、検地をした人と農民の両方の立場から記述している児童が、事後テストでは24名全員となり、事前テストから8名増えた。

【表9】は、事前・事後テストでの具体的な記述の一例である。事前テストでは、検地をしている人が農民のどちらかの立場が中心であり、どんな思いかを表面的、感覚的にとらえて記述している。事後テストでは、両方の立場から様々な視点で考えて記述していることが分かる。

これらの結果から、検地という歴史的事象とかがわかる多くの人の存在に目を向けられるようになり、事象の多面性に気付いたり、考えたりすることができるようになったと考えられる。

(イ) 自分の考えを広げる力を育てる場における授業実践の分析

広げる力を育てるために、手だての試案に基づき、第2時では、大名の立場から参勤交代について考えた。追究する視点を明確にし追究意欲を継続させようと、大名行列の絵に注目させ、大名が乗っている駕籠を拡大した絵を提示した。そして、駕籠から大名が降りるように大名の絵

を提示した。それから、「大名はどんな思いで参勤交代をしているんだろう。」と児童に発問し、大名の思いを吹き出しに書かせた。「私の妻や子どもを人質として江戸に住まわせることは反対だ。」「参勤交代は大変だし、お金もかかるけど、もし江戸に行かなければ妻や子が殺されてしまうかもしれない。」という児童の記述がみられ、参勤交代の事実に着目しながら考えていることが分かった。それから、大名行列の大変さを費用の面から考えるために、金沢藩の予算の円グラフを提示した。児童が、参勤交代にかかる費用の割合に注目するように、グラフの項目にマスキングして提示した。児童は、参勤交代がいかに大名にとって負担が大きいか考えることができた。

児童は、このような学習活動をとおして、追究する視点や立場を変えて事象の意味について考

【表8】自分の考えを広げる力の状況

N = 24 (単位:人)

		事前	事後	増減
着目した人物	検地をした人だけに記述	5	0	- 5
	農民にだけ記述	3	0	- 3
	検地をした人と農民の両方に記述	16	24	+ 8

【表9】具体的な記述(一部抜粋)

	事前の記述	事後の記述
検地をしている人	<ul style="list-style-type: none"> 早く面積を測れ 検地は大変だなあ この田の広さは... 	<ul style="list-style-type: none"> 細かい所まできちんと面積を測れ 検地は大変だけど、秀吉の命令に従わなくちゃいけない さんはで kg年貢を納めるんだぞ
農民	<ul style="list-style-type: none"> そろそろ終わるかな 私たちにできることはないかなあ 自分たちで耕したんだからやらなくてもいいだろう 	<ul style="list-style-type: none"> これで田畑を耕せるが、決まった年貢を納めなくてはならないな 私たちの田の面積はどれくらいだろうか。私たちが頑張って作った田だ。きちんと平等にしてほしい。 自分で頑張って大きくした田なのに、何でそれぞれ年貢の量が違うんだ

えたり、人物の気持ちを考えたりすることができたと考えられる。そして、児童は、事象の多面性に気付くための事象の見方を学び、事象の見方を広げることができたと考えられる。

以上のことから、歴史的事象の多面性に気付かせる資料提示と発問は、自分の考えを広めるために効果があったのではないかと考えられる。

ウ 自分の考えを深める力の育成状況

(ア) 自分の考えを深める力の分析結果

【表10】は、「自分の考えを深める力」の状況について事前・事後テスト結果をまとめたものであり、「自分の考えを深める力」の育成状況を、検地に対する児童の考えとその理由の記述状況によりとらえた。

表から、検地に対する自分の考えを記述した児童が2名増え、根拠となる理由を記述している児童が事後テストでは19名となり、事前テストから14名増えた。

【表11】は、事前・事後テストでの具体的な記述の一例である。事後テストの理由の記述内容をみると、「検地があってもいいと思う」や「検地に賛成」というように自分の考えを明確に述べている。そして、「その人にあった年貢を納められるから」や「田畑を耕す権利をもらえたから」という自分の考えの根拠となる理由を記述していることから、検地に対する自分の考えを深めたものになっていることがわかる。事後テストで考えの根拠となる理由の記述と理由の記述がない児童は5名であり、検地に対する自分の考えを記述はしているが、根拠となる理由付けになっていないため考えが深まっていないことが分かる。

(イ) 自分の考えを深める力を育てる場における授業実践の分析

自分の考えを深める力を育てるために、手だての試案に基づき、第2時では、参勤交代に対する見方や考え方を交流した。家光と大名の立場から参勤交代について考えてきたことや、参勤交代に対する自分の考えを交流させるために、「参勤交代について賛成ですか。反対ですか。」と発問した。この発問によって、児童は参勤交代に対する自分の立場を明確にできた。賛成に挙手した児童は2、3名で、残りの全員が反対に挙手した。次に、「賛成の理由は」の問いに、「参勤交代をすれば、戦いがなくて平和になると思う。」という意見が出された。これに対して、反対意見として、「妻や子を人質にされているし、大名に負担がかかる。」「参勤交代で確かに戦いはないけど、支配されて生活するのは平和とは言えない。」ということが出された。これらの理由が児童から発表されたのは、参勤交代について幕府の立場とともに、大名の立場からも考えてきたためである。それから、「も

【表10】自分の考えを深める力の状況

N=24 (単位：人)

		事前	事後	増減
検地に対する自分の考えの記述		22名	24名	+ 2
理由の記述あり	根拠となる理由を記述している	5名	19名	+ 14
	根拠となる理由を記述していない	9名	4名	- 5
理由の記述なし		10名	1名	- 9

【表11】具体的な記述（一部抜粋）

児童	事前の記述	事後の記述
	事前テストで考えの根拠となる理由があり、事後テストでも考えの根拠となる理由の記述がある	検地があってもいいと思います。理由は検地をすればその人にあった年貢を納められるからです。そうすれば、自分が生活に困らない年貢を納められるからです
	事前テストで考えの根拠となる理由がなかったが、事後テストで考えの根拠となる理由の記述がある	ぼくは検地をすることに賛成です。わけは、年貢を納めなければならぬかわりに、田畑を耕す権利をもらえたからです
	事前テストで考えの根拠となる理由がなく、事後テストでも考えの根拠となる理由の記述がない	他にもいっぱい決まりを作っていて、少しは決まりを減らした方がいいと思います

し、参勤交代を行わなければ、大名はこの費用を何に使っただろうか。」と発問し、参勤交代について考える視点を与えた。児童は、大名の行動を予想し参勤交代が果たした役割について考えることができた。

児童は、このような学習活動をとおして、歴史的事象の見方や考え方を学び、自分の考えを深めることができたと考えられる。児童は、問題追究の視点や立場を変えて考えることにより、歴史的事象の多面性に気付き、その気付きを交流することで自分の考えを根拠のあるものにしてきた。以上のことから、見方や考え方を交流させる発問は、自分の考えを深めるために効果があったと考えられる。

5 小学校社会科の歴史学習における考える力を育てる学習指導に関する研究のまとめ

これまで手だての試案に基づく授業実践を行い、実践結果の分析と考察をとおして、その有効性を考えてきた。それらの結果から、成果と課題についてまとめる。

(1) 成果

ア 自分の考えをもつ力を育てる場の資料提示と発問により、児童は歴史的事象への興味・関心とともに、歴史的事象の事実に着目することにより問題意識を高めることができ、自分の考えをもつことができた。そして、この自分の考えをもつことが、問題追究を行う原動力となった。

イ 自分の考えを広げる力を育てる場において、歴史的事象の多面性に気付かせる資料提示と発問により、問題を追究する視点や立場を変えて考えられるようになった。また、学習問題について調べ確かめたことを基に、多様な視点から歴史的事象の意味を考えることができた。

ウ 自分の考えを深める力を育てる場において、歴史的事象に対する見方や考え方を交流させる発問により、多様な見方や考えに気付くとともに、事象に対する自分の考えを明確にできた。

エ 考える力を育てる三つの場を指導過程に位置付け、学習活動を展開することにより、児童の考える力を段階的に培うことができた。また、歴史的事象に対する見方や歴史学習の追究の視点をとらえさせることができた。

(2) 課題

ア 児童の生活経験と歴史的事象を結びつける発問の吟味が必要である。資料提示の工夫により、児童に考える視点をもたせることはできたが、児童と歴史的事象とのかかわらせるための発問が上手く児童に伝わらなかった。特に、歴史的事象と児童の生活経験を結びつけさせる発問の吟味が必要である。

イ 複数の資料を関連付けて読み取る力を育成することが必要である。全体で5%の児童が、資料の関連付けが不十分なために、自分の考えをもてたとはいえない状況であった。学習問題に対する自分の考えをもつためには、歴史的事象の特徴を表した絵資料とそれを説明する文章を関連付けて読み取る必要がある。

以上のことから、いくつかの課題はあるものの、資料提示と発問の工夫を取り入れた手だての試案は有効であり、小学校社会科の歴史学習における考える力を育てるために効果があったものとする。

研究のまとめ

1 研究のまとめ

本研究は、小学校社会科の歴史学習において、資料提示と発問の工夫をとおして、考える力を育てる学習指導について明らかにし、小学校社会科の歴史学習における指導の充実と向上に役立てようとするものであった。その結果、仮説の妥当性を確かめることができた。なお、成果として確かめられたことは、次のとおりである。

- (1) 小学校社会科の歴史学習における考える力を育てる学習指導に関する基本構想
小学校社会科の歴史学習における考える力を育てる学習指導に関する基本的な考え方として、自分の考えもつ力を育てる場、自分の考えを広げる力を育てる場、自分の考えを深める力を育てる場という三つの場を設定した。また、その場ごとに、歴史的事象の特徴をとらえさせる資料提示と発問、事象の多面性に気付かせる資料提示と発問、見方や考え方を交流させる発問を取り入れることにより、資料提示と発問の工夫を取り入れた基本構想を明らかにすることができた。
- (2) 手だてにかかわる実態調査及び調査結果の分析と考察
手だての試案を作成するに当たって、社会科の授業における学習活動での児童の実態調査を行った。その結果、考える力を育てる三つの場において、既習事項や生活経験と結びつけて学習問題に対する予想を行えるようにすること、追究する視点や立場を明確にすること、自分の立場を明確にさせ自分の考えの根拠を言わせるようにすることが、手だての試案作成上の配慮事項として明らかになった。
- (3) 基本構想に基づく手だての試案の作成
基本構想及び実態調査から明らかになった資料提示と発問の工夫を取り入れる際の配慮事項を基にして、小学校社会科の歴史学習における考える力を育てるための手だての試案を作成することができた。
- (4) 授業実践及び実践結果の分析と考察
授業実践をとおして、自分の考えもつ力を育てる場、自分の考えを広げる力を育てる場、自分の考えを深める力を育てる場の三つの場において、資料提示と発問の工夫を行うことで、歴史的事象の意味や働きについて考える児童の姿を見ることができた。また、検証計画に基づいた実践結果の分析と考察により、手だての試案が児童の考える力を育てる上で有効であることが確かめられた。
- (5) 小学校社会科の歴史学習における考える力を育てる学習指導に関する研究のまとめ
実践結果の分析と考察に基づき、小学校社会科の歴史学習における考える力を育てる学習指導について成果と課題を明らかにすることができた。

2 今後の課題

本研究を今後より生かすための課題として次のことがあげられる。

小学校社会科の歴史学習における考える力を育てるために、自分の考えをもつ力を育てる場、自分の考えを広げる力を育てる場、自分の考えを深める力を育てる場の三つの場における学習内容を精選し、児童と歴史的事象とのかかわりがより強められるよう授業実践を継続していく必要がある。

おわりに

長期研修の機会を与えてくださいました関係諸機関の各位並びに所属校の諸先生方と児童のみなさんに心から感謝を申し上げ、結びのことばといたします。

【参考文献】

- 安野功編(2005),『全単元・全時間の授業のすべて』,東洋館出版社
北俊夫(2000),『社会科の責任』,東洋館出版社
北俊夫・羽豆成二(2002),『社会科授業と評価6年』,教育出版
星村平和編著(1991),『小学校歴史学習の理論と実践』,東京書籍
溝上泰・片上宗二・北俊夫編(1995),『意欲的に取り組む学習問題づくりのアイデア』,明治図書刊

【補充資料】

- 目 次 -

【補充資料 1】手だての試案作成のための実態調査紙	資 1
【補充資料 2】検証にかかわる事前・事後テスト問題	資 2
【補充資料 3】単元「徳川家光と江戸幕府」の学習指導略案	資 3

【補充資料2】自分の考えを広げる力・深める力をみる事前事後テスト

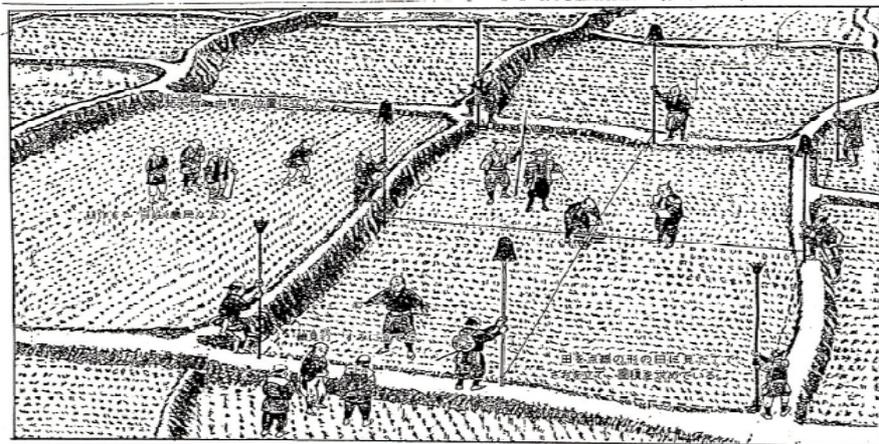
事前事後テストの判断基準

構成要素	判断項目	判断の観点	判断するための基準及びキーワード
広げる力 自分の考えを	事象の多面性に気付くことができる	検地について、検地をする人と検地を受ける農民の立場から考えることができるか	<ul style="list-style-type: none"> ・検地をする人と農民の両方の立場から検地に対する思いを書いている * 下記の検地を説明するキーワードに基づいて、検地をする人と検地を受ける農民の立場から記述しているかどうかを判断する ・秀吉・役人たち・全国くまなく・厳しい命令 ・農民・田畑を耕す権利・決められた年貢・義務
深める力 自分の考えを	自分の考えを根拠のあるものとすることができる	検地に対する自分の考えを、検地の事実から理由付けて根拠のあるものとするか	<ul style="list-style-type: none"> ・検地に対する自分の考えに、根拠となる理由を書いている * 下記の検地を説明するキーワードに基づいて、自分の考えを述べているかを判断する ・耕している者の名前・土地の広さ・とれ高 ・きまった年貢・田畑を耕す権利・決められた年貢

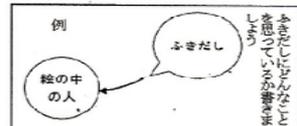
1 豊臣秀吉が全国統一するときに行った検地について、(1)と(2)の問いに答えましょう。

検地の様子（想像図）

秀吉は、役人たちに、全国くまなく検地を行うように厳しく命じました。検地によって、農民は田畑を耕す権利を認められるかわりに、決められた年貢を納める義務を負いました。



(1) 上の資料は検地の様子を写した絵です。この絵にはいろいろな人が描かれています。この人たちは、どんなことを思っているのでしょうか。絵の中の人に○をつけて、まわりのあいている所に『ふきだし』にして書きましょう。



(2) 検地について、調べたことをまとめました。



・秀吉が全国くまなく
・役人たちに命じられた
・農民は田畑を耕す権利を認められるかわりに、決められた年貢を納める義務を負いました。



・農民は田畑を耕す権利を認められるかわりに、決められた年貢を納める義務を負いました。

◎あなたは検地についてどう思いますか。あなたの考えを下の□に書きましょう。

【補充資料3】単元「徳川家光と江戸幕府」の学習指導略案

第6学年 社会科学習指導略案

期 間 平成17年8月30日～9月16日

対 象 大槌町立大槌小学校6年生

男子12名 女子12名 計24名

授業者 高 田 公 明

1 単元名 「徳川家光と江戸幕府」

2 単元の目標

(関心・意欲・態度) 家光が行った政策に関心をもち、どうして江戸幕府が長期間にわたって政権を維持できたのか意欲的に調べようとする。

(思考・判断) 家光が行った政策について様々な視点から追究し、幕府の長期政権と関連付けてとらえるとともに、それらについて自分なりの考えをもつことができる。

(観察・表現・資料活用の技能)

年表、絵、文章資料などから江戸幕府の支配体制の様子を調べたり、発表したりすることができる。

(知識・理解) 家光の時代になると参勤交代や鎖国により江戸幕府の力が一段と高まり、幕藩体制を確立していったことが理解できる。

3 単元について

本単元では、江戸幕府による支配体制が確立したこと、身分制度が確立し武士による安定した政治が行われたことを学習する。

江戸幕府は、1603年に徳川家光が江戸に幕府を開いて以来、1867年に15代将軍徳川慶喜が、政権を天皇に返すまで約260年続いた長期政権である。徳川家光の時代には、参勤交代や大名配置、武家諸法度など大名への統制が整備された。幕府の政策には、大名だけに限らず農民の支配やキリスト教の禁止、鎖国などがある。江戸幕府はこれらの政策により政治の安定を図り、長期にわたって政権を維持した。

指導にあたって、本単元では、「大名行列」「大名配置」「農民の暮らし」「キリスト教の禁止」「鎖国」について、様々な視点から追究させ、それらの事象について自分なりの考えをもつことができるようにさせたい。そのために、学習過程の中に「自分の考えをもつ力を育てる場」「自分の考えを広げる力を育てる場」「自分の考えを深める力を育てる場」を設定し、三つの場ごとに資料提示と発問の工夫を行いたいと考える。

「徳川家光と江戸幕府」学習指導略案（第2時 / 7時間）

本時のねらい 参勤交代が幕府の大名支配に果たした役割についてとらえるとともに、この制度の意味や働きについて自分なりの考えをもつことができる。

段階	場	学習活動と内容	期待する児童の反応	資料	主な発問	指示
問題の把握	考えをもつ力を育てる場	1 事実をつかみ、学習問題をたてる ・参勤交代の絵図や文書資料から、気付いたことを話し合い、本時の学習問題をたてる <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">家光は、どうして参勤交代を行かせたのだろう</div>	<自分の考えをもつ力> ・大名行列の人数や長さや1年おきに江戸と領地を行ったり来たりしていること、江戸に妻や子どもがいることをつかむ	・大名行列（絵） ・参勤交代について（文書資料） ・参勤交代にかかった日数についての地図	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">この絵から分かることは何ですか</div>	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">参勤交代と、今の旅行を比べて違うことは何ですか</div>
		2 学習問題に対する予想をする ・家光が参勤交代を行かせた理由について、資料や既習事項、生活経験を基にして予想する	・大名行列の人数や日数からお金がかかること、江戸に妻や子が人質になっていて幕府に従わなければならないことなどに着目して予想する		<div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">自分の考えをノートに書きましょう</div>	
問題の追究	考えを広げる力を育てる場	3 確かめる ・教科書や資料集を使って参勤交代について調べる ・幕府の立場から参勤交代についておさえる	<自分の考えを広げる力> ・武家諸法度や費用の面からとらえる ・大名の力を弱めることが目的だったことをおさえる			
		4 事象のもつ意味を考える ・大名の立場から参勤交代について考える ・費用の面から参勤交代について考える	・お金がかかることや江戸が遠いこと、妻や子への思いなどから大名の気持ちを考える ・金沢藩の予算割合から、参勤交代がいかに大名にとって負担だったか考える	・大名の立場から参勤交代について考えることを明確にするために、大名の絵を提示する ・金沢藩の予算の円グラフを提示（紙板書）	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">参勤交代をしている大名はどんなことを考えていますか</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">金沢藩の予算で一番費用がかかっているのは何ですか</div>	
まとめ	考えを深める力を育てる場	・参勤交代に対する児童個々の見方や考え方を交流し、参勤交代に対する自分の考えを根拠のあるものとする	<自分の考えを深める力> ・幕府や大名の立場から、参勤交代について確認する ・参勤交代について自分がどう思うか、立場を明確にする ・江戸時代の安定に果たした参勤交代の役割について考えることができる		<div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">みんなは参勤交代に賛成ですか、反対ですか。参勤交代に対する自分の考えを発表しましょう</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">もし、参勤交代をしなかったら、大名はこの予算を何に使ったのだろう</div>	
		5 まとめる・ふり返る ・参勤交代に対する自分の考えをノートに書く	・参勤交代に対する自分の考えを、これまでの学習を基に考える		<div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">参勤交代に対する自分の考えをノートに書きましょう</div>	

「徳川家光と江戸幕府」学習指導略案（第3時 / 7時間）

本時のねらい 大名配置が幕府の大名支配に果たした役割についてとらえるとともに、この制度の意味や働きについて自分なりの考えをもつことができる。

段階	場	学習活動と内容	期待する児童の反応	資料	主な発問 指示
問題の把握	考えをもつ力を育てる場	1 事実をつかみ、学習問題をたてる ・大名配置図から、気付いたことを話し合い、本時の学習問題をたてる	<自分の考えをもつ力> ・江戸の遠くにはどんな大名が配置されているのか外様大名についてつかむ	・大名配置図（図）	この図からどんなことが分かりますか みんなが家光だったら、大名をどう配置しますか
		2 学習問題に対する予想をする ・家光がどのような大名配置を考えたか、資料や既習事項、生活経験を基にして予想する	・江戸の近くには親藩・譜代大名を、遠くには外様大名が配置されていることや、参勤交代のことなどに着目して予想する		自分の考えをノートに書きましょう
問題の追究	考えを広げる力を育てる場	3 確かめる ・教科書や資料集を使って大名配置について調べる ・幕府の立場から大名配置について押さえる	<自分の考えを広げる力> ・家光の大名配置の考えを地理的な面や親藩・譜代大名の配置からとらえる ・大名が幕府に対して反乱出来ないようにすることが目的だったことを押さえる	・武家諸法度（紙板書）	
		4 事象のもつ意味を考える ・江戸時代に12回も領地を移された大名について考える ・大名配置に対して、大名はどう思っていたのか考える	・12回も領地を移された大名の大変さが分かる ・外様大名の気もちになって、大名配置について考えることができる	・松平氏の国替えマップ（絵図） ・大名の絵（紙板書）	松平氏の国替えマップから分かることは何ですか 大名を移したり、取りつぶしたりする大名配置に対して、外様大名はどんな気もちですか
まとめ	考えを深める力を育てる場	・大名配置に対する児童個々の見方や考え方を交流し、大名配置に対する自分の考えを根拠のあるものとする	<自分の考えを深める力> ・幕府や大名の立場から、大名配置について確認する ・江戸時代の安定に果たした大名配置の役割について考えることができる		もし、みんなが大名だったら幕府の命令に対してどうするか考えてみましょう
		5 まとめる ・大名配置に対する自分の考えをノートに書く	・大名配置に対する自分の考えを、これまでの学習を基に考える		大名配置に対する自分の考えをノートに書きましょう

「徳川家光と江戸幕府」学習指導略案（第4時 / 7時間）

本時のねらい 江戸時代における身分制度が幕府の農民支配に果たした役割についてとらえるとともに、この制度の意味や働きについて自分なりの考えをもつことができる。

段階	場	学習活動と内容	期待する児童の反応	資料	主な発問 指示
問題の把握 問題の追究 まとめ	考えをもつ力を育てる場 考えを広げる力を育てる場 考えを深める力を育てる場	1 事実をつかみ、学習問題をたてる ・年貢を納める百姓の絵図や身分ごとの人口の割合を表すグラフから、気付いたことを話し合い、本時の学習問題をたてる 家光は、どのように百姓を支配したのだろう	<自分の考えをもつ力> ・武士が百姓の様子を監視したり、米の量を記録したりしていること、少数の武士が百姓を支配していることをつかむ	・年貢を納める百姓（絵図） ・身分ごとの人口の割合（グラフ）	この図からどんなことがわかりますか 秀吉は農民に対してどのような政策を行いましたか
		2 学習問題に対する予想をする ・幕府は、どのように百姓支配を考えたか、資料や既習事項、生活経験を基にして予想する	・幕府が年貢を納めさせるためにしたことや幕府に反抗しないためにしたことに着目して予想する		自分の考えをノートに書きましょう
		3 確かめる ・教科書や資料集を使って百姓に対する幕府の支配について調べる ・幕府の立場から百姓支配についておさえる	<自分の考えを広げる力> ・慶安の御触書や五人組の制度からとらえる ・身分をはっきりさせて、武士中心の世の中が続くようにすることが目的だったことをおさえる	・慶安の御触書（紙板書）	
		4 事象のもつ意味を考える ・慶安の御触書によって、農民がどのような生活をしなければならなかったか考える ・御触書を見て、百姓はどう思っていたか考える	・仕事や食べ物、着る物まで決められた百姓の気持ちを考える	・慶安の御触書による農民の生活を表したイラストを提示 ・慶安の御触書に注目させる。そして、百姓の絵を提示	百姓の生活は、御触書が出る前と出た後ではどのように変わりましたか 百姓はどんな思いで御触書を見ていますか
		・農民支配に対する児童個々の見方や考え方を交流し、農民支配に対する自分の考えを根拠のあるものとする	<自分の考えを深める力> ・幕府や百姓の立場から、百姓支配について確認する ・江戸時代の安定に果たした百姓の役割について考えることができる		慶安の御触書を出した家光に対してどう思いますか。自分の考えを発表しましょう
		5 まとめる ・百姓支配に対する自分の考えをノートに書く	・百姓の支配に対する自分の考えを、これまでの学習を基に考える		百姓支配に対する自分の考えをノートに書きましょう

「徳川家光と江戸幕府」学習指導略案（第5時 / 7時間）

本時のねらい キリスト教の禁止が幕府の政治体制の安定に果たした役割についてとらえるとともに、この制度の意味や働きについて自分なりの考えをもつことができる。

段階	場	学習活動と内容	期待する児童の反応	資料	主な発問 指示
問題の把握	考えをもつ力を育てる場	1 事実をつかみ、学習問題をたてる ・ 絵踏みの絵図やキリスト教信者の増加のグラフから、気付いたことを話し合い、本時の学習問題をたてる <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">家光は、どうしてキリスト教を禁止したのだろう</div>	<自分の考えをもつ力> ・ キリスト教信者かどうか試していることや、キリスト教信者が増加していることをつかむ	・ 絵踏みの様子（絵図） ・ 絵踏みに使われたマリア像（写真） ・ 鎖国までの主な年表 ・ キリスト教信者の増加（グラフ）	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">この絵から分かることは何ですか</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">信長や秀吉はキリスト教に対してどのような政策を行いましたか</div>
		2 学習問題に対する予想をする ・ 家光がキリスト教を禁止した理由について、資料や既習事項、生活経験を基にして予想する	・ キリスト教信者の増加や教えが幕府にとって都合が悪そうなことに着目して予想する		<div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;">自分の考えをノートに書きましょう</div>
問題の追究	考えを広げる力を育てる場	3 確かめる ・ 教科書や資料集を使ってキリスト教の禁止について調べる ・ 幕府の立場からキリスト教の禁止についておさえる	<自分の考えを広げる力> ・ 封建制とキリスト教の教えの違いからとらえる ・ キリスト教信者が幕府に従わなくなること恐れ禁止したことをおさえる		
		4 事象のもつ意味を考える ・ 島原・天草一揆から、幕府や大名に対するキリスト教信者を含めた人々について調べる ・ どんな思いで天草四郎が幕府と戦ったのか考える	・ キリスト教弾圧や思い年貢に苦しむ人々の様子が分かる ・ 幕府と戦った天草四郎の思いを考えることができる	・ 島原・天草一揆（絵） ・ 天草四郎の絵	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">島原・天草一揆からどんなことが分かりますか</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">幕府と戦った天草四郎はどんな気持ちですか</div>
まとめ	考えを深める力を育てる場	・ キリスト教禁止に対する児童個々の見方や考え方を交流し、キリスト教禁止に対する自分の考えを根拠のあるものとする	<自分の考えを深める力> ・ 幕府や信者の立場から、キリスト教禁止について確認する ・ キリスト教の禁止が江戸時代の安定に果たした役割について考えることができる		<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">もし、キリスト教がこのまま広がったらどうなるだろう</div>
		5 まとめる ・ キリスト教禁止に対する自分の考えを書く	・ キリスト教禁止に対する自分の考えを、これまでの学習を基に考える		<div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;">キリスト教禁止に対する自分の考えをノートに書きましょう</div>

「徳川家光と江戸幕府」学習指導略案（第6時 / 7時間）

本時のねらい 鎖国が幕府の政治体制の安定に果たした役割についてとらえるとともに、この制度の意味や働きについて自分なりの考えをもつことができる。

段階	場	学習活動と内容	期待する児童の反応	資料	主な発問 指示
問題の把握	考えをもつ力を育てる場	1 事実をつかみ、学習問題をたてる ・ 絵図や年表から、気付いたことを話し合い、本時の学習問題をたてる <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;">家光は、どうして鎖国をしたのだろう</div>	<自分の考えをもつ力> ・ スペイン船やポルトガル船の来航を禁止していることをつかむ	・ 日本とアジア各地との貿易（地図） ・ 鎖国までの主な年表 ・ 鎖国について（紙板書）	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">この絵から分かることは何ですか</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">スペインやポルトガルの船を禁止したのはどうしてだろう</div>
		2 学習問題に対する予想をする ・ 家光が鎖国をした理由について、資料や既習事項、生活経験を基にして予想する	・ スペイン船やポルトガル船の来航の禁止が、キリスト教とのかかわりがあることに着目して予想する		<div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;">自分の考えをノートに書きましょう</div>
問題の追究	考えを広げる力を育てる場	3 確かめる ・ 教科書や資料集を使って鎖国について調べる ・ 幕府の立場から鎖国についておさえる	<自分の考えを広げる力> ・ キリスト教のかかわりと、オランダと中国とは長崎の出島で貿易をしたことをとらえる	・ 出島の様子 ・ 鎖国令(紙板書)	
		4 事象のもつ意味を考える ・ ジャガタラ文から、日本町に取り残された人たちについて考える ・ 鎖国に対して、東南アジアの日本町に住んでいた人はどう思っていたか考える	・ 鎖国のために日本に帰れない悲しい思いが分かる ・ どうして幕府は鎖国をしたのか、これから自分たちはどうなるのか日本町の人の気持ちを考える	・ ジャガタラ文を提示してから、それををやさしくした文を提示（紙板書） ・ 日本人町の女（想像して描いた絵）	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">この手紙からどんなことが分かりますか</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">日本町の人はどんな思いで日本のことを考えていますか</div>
まとめ	考えを深める力を育てる場	・ 鎖国に対する児童個々の見方や考え方を交流し、鎖国に対する自分の考えを根拠のあるものとする	<自分の考えを深める力> ・ 幕府や日本町の人々の立場から、鎖国について確認する ・ 江戸時代における鎖国が果たした役割について考えることができる		<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">鎖国によってこのあと日本はどうなっていくのだろう</div>
		5 まとめる・ふり返る ・ 鎖国に対する自分の考えをノートに書く	・ 鎖国に対する自分の考えを、これまでの学習を基に考える		<div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;">鎖国に対する自分の考えをノートに書きましょう</div>